

M. M. P. I. による運動選手の性格に関する一考察

— バスケット・ボール選手について —

青井水月

I 研究の目的

この研究はアメリカにおける「MMPI による運動競技者のパーソナリティの特性」の中で、運動競技者と非運動競技者間、および個人スポーツとチーム・スポーツとの間に差がみられることを明らかにしているが¹⁾、わが国バスケット・ボールを代表する選手群に MMPI 性格テスト（東大改訂版）を課した場合、どのような傾向がみられるかを考察しようとするものである。

II 研究の方法

(1) 1962年、日本バスケット・ボール協会は高校、大学、実業団チームから優秀選手を選抜してナショナル・チームを編成し、特別強化練習を計画して技術向上を目ざし、国際試合にはナショナル・チームのメンバーから、さらに選手を選抜してゲームに出場させるシステムが採用された。1962年8月、ジャカルタ国際試合に代表軍として選抜された10名と、選抜漏れとなった9名の2集団から、スケールにあらわれた傾向を考察した。

(2) ジャカルタ国際試合出場選手の中、公式戦に主力となって活躍した選手（ゲーム出場時間から上位5名）を選び、個人のプロフィールの考察をこころみた。

(3) 代表選手のプロフィールを個別に考察する時、長身選手に神経症的傾向が高くあらわれているが、このことは、他の長身者（高校選抜長身者群、

およびバレーボール選手）にもみられるか否かを考察した。

(4) 1964年オリンピック代表選手12名について、MMPI 性格テストのプロフィールの考察と、この12名中長身者4名と、低い方4名とについて傾向を比較考察した。

III 結果の考察

(1) 第1図はナショナル・チーム・メンバーの中、ジャカルタ国際試合に出場選手10名（実線、A群）とジャカルタ国際試合不出場選手9名（波線、B群）についてのプロフィールである。

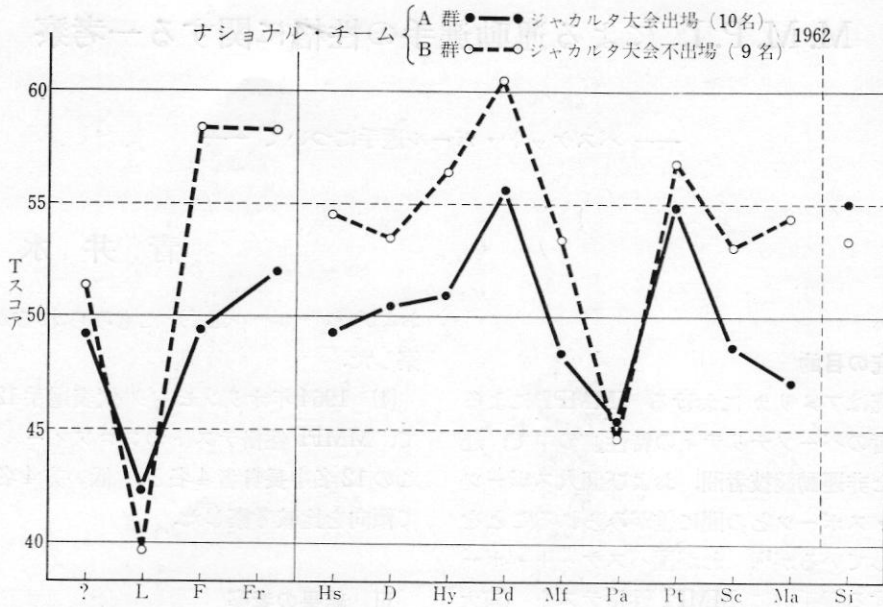
a) 臨床診断スケールにおいて、B群は pa, Si スケールを除いていずれも A 群より T スコア点が高い。

b) Hs, D, Hy, Pt の4スケールの組合せから神経症的傾向を観察すると、B群は標準尺度50点の平均よりいずれも高い点を示していることからみて、線の細い神経症的傾向を持つ者が多いことを示している。A群では T スコア50の平均と大きなずれがない。

c) 興味の型が男性的か女性的かをみようとする Mf スケールでは、A群が平均50点より低く、男性的傾向を示すのに対し、B群では平均50点より高く女性傾向を示している。

d) Ma スケールにおいて、B群は浮いた感情を示しているが、A群ではB群と逆の傾向を示している。

(2) ジャカルタ国際試合に出場の選手12名の中、ジャカルタ大会の公式戦に主力として活躍した選手（ゲームに出場した時間の多い者5名）について、個人ごとにプロフィールを描いたものが第2



第1図 ナショナル・チーム

図である。

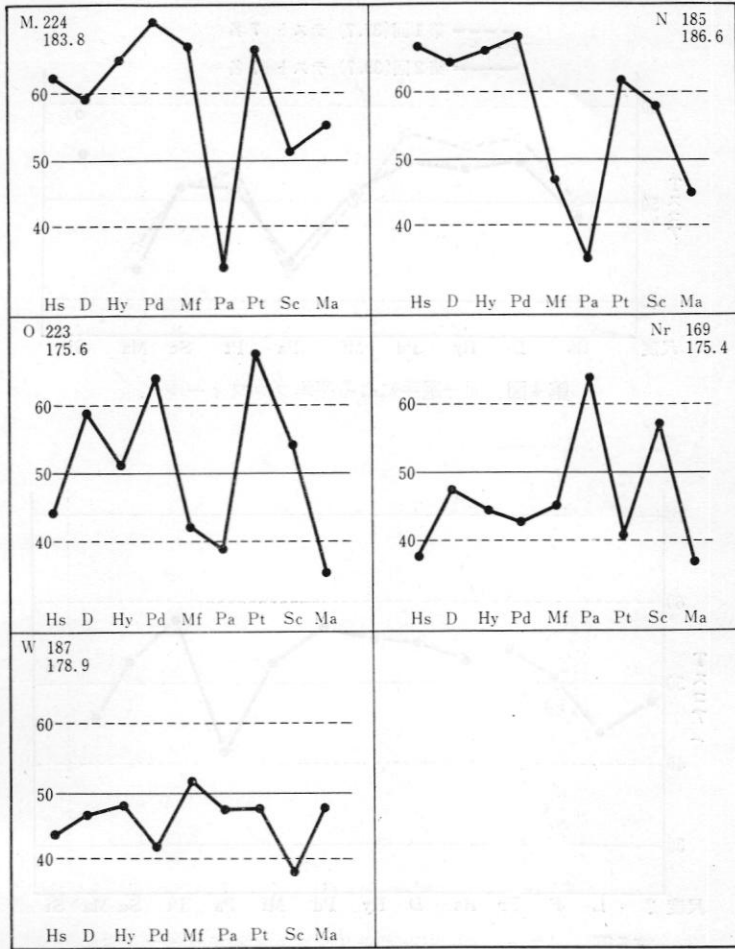
- a) 個人別プロフィールにおいて、183 cm 以上の長身者 2 名、M と N は比較的類似の傾向を示し、Hs, D, Hy, Pt の 4 スケールの組合せからみる神経症的傾向が高くあらわれている。
- b) W, Nr の 2 名について、Hs, D, Hy, Pt の 4 スケールの組合せをみると、いずれも平均 T スコア 50 点より低い位置を示していることから、神経症的傾向の少ないことを示している。
- (3) 1961 年日本バスケットボール協会は、高校男子のバスケット・プレイヤーから、特に身長 180 cm 以上の技術的にも上位にあると思われる者を選抜して強化練習を行なった。このプレイヤー

を 184.6 cm 以上 9 名と 184.2 cm 以下 9 名に 2 分し、184.6 cm 以上を A 群、184.2 cm 以下を B 群として、プロフィールの傾向を比較した (第 3 図)。

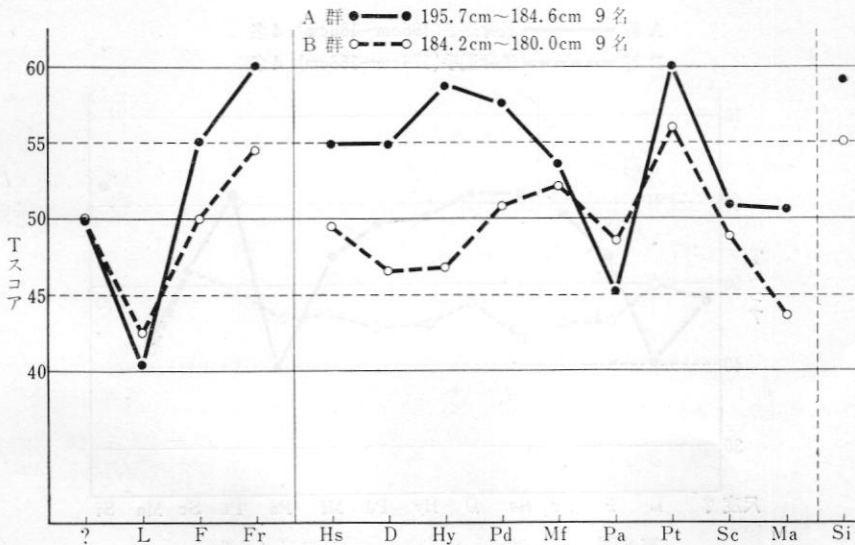
高校男子長身者選抜軍において、身長 184.6 cm 以上の超長身群 (A 群) は、神経症的傾向をみようとする Hs, D, Hy, Pt の 4 スケールの組合せにおいて、いずれも B 群より T スコアが高いところからみて、神経症的傾向の高いことを示している。

- (4) a) 昭和 39 年、日本バスケットボール協会は、オリンピックに出場選手 12 名を代表選手として選出した。12 名の選手中、7 名は昭和 37 年にナショナルチームの選手として、強化練習を受けていたプレイヤーである。昭和 37 年 7 月、MMPI テストをすでに受けた 7 名が、2 年後の 39 年 7 月同一テストを受けた場合、どのように変化がみられるかをみたものが第 4 図である。この図から、第 1 回テストと第 2 回テストの間に、性格的な大きな変化はみられていない。年齢 (20~27 歳)、スポーツ経験年数 (6~15 年) のプレイヤーにおいては、2 年間ナショナルチームを編成して強化

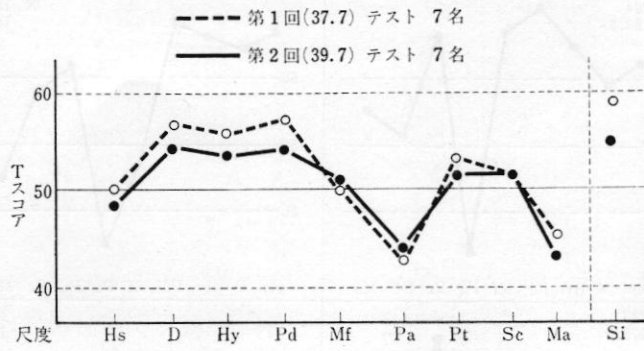
	選手	出場時間(分)	身長 (cm)
1	M	224	*183.3
2	O	223	175.6
3	W	187	178.9
4	N	185	*186.6
5	Nr	169	175.4



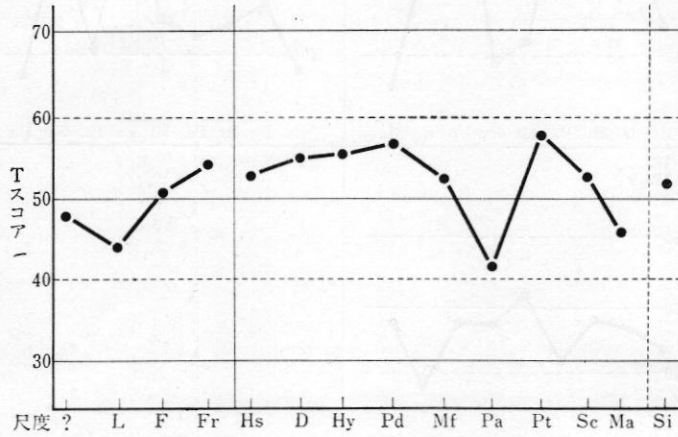
第2図 個人別プロフィール



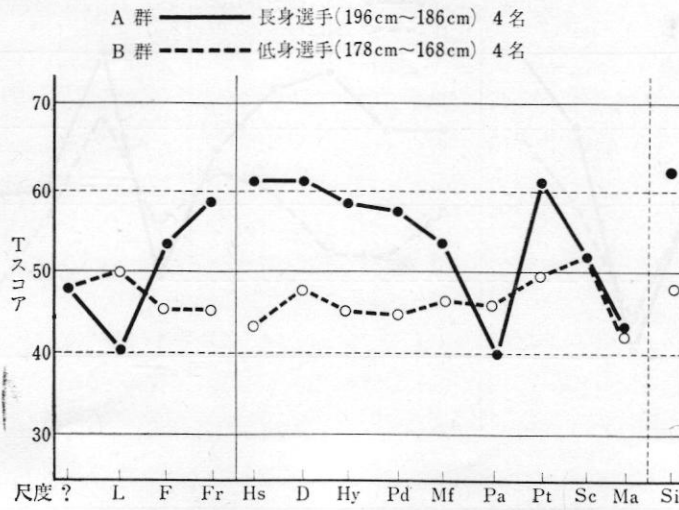
第3図 バスケットボール高校長身選抜チーム (1962, 18名)



第4図 同一選手による平均プロフィール



第5図 バスケット・ボールオリンピック選手プロフィール



第6図 バスケット・ボール選手プロフィール

練習を続けても、性格を大きく変化させることがなかったことを意味するものと思われる。

- b) 第5図はオリンピック選手12名のプロフィールである。臨床尺度においてみると、Pa (パラノイヤ), Ma (ヒポマニヤ) の2スケールを除いて、すべて標準尺度Tスコアの平均50点より高い得点を示している。神経症的傾向をみようとする4つの尺度の組合せ (Hs, D, Hy, Pt) のいずれも、平均50点より高いところからみて、今回選ばれた選手は線の細いプレイヤーが多く選ばれたもののように思われる。
- c) 第6図は長身選手 (196~186cm) 4名 (A群) と身長の高い選手 (178~168cm) 4名 (B群) についての平均プロフィールである。A群ではPa (パラノイヤ) スケールを除いて、他のスケール全部がB群より高い得点を示している。Hs, D, Hy, Pt の4スケールの組合せから診断しようとしている神経症的傾向では、B群では標準スケールのTスコア50点よりいずれも下位にあるのに対し、A群では60点内外の高得点を示しているところから、A群選手に多く神経症的傾向が現われているものと思われる。バスケットボールにおけるチームゲームではプレイの性質上、チャンスマーカーとなって、シューターにボールをパス・インするプレイヤー (多くは低身プレイヤー) とパスされたボールを受けてショットするプレイヤー (多くは長身プレイヤー) とに分けて考えることができるが、このような両群の性格的な差異が、代表選手12名の間にみることができる。すなわち線の太い選手は低身選手に多く、線の細い選手は長身選手に多くみられる傾向である。また社会的向性尺度 (Si) ではA群ではTスコア60点をこえ、B群では50点以下を示しているところからみて、長身選手は低身選手に比して、他人との社会的接触を避けようとする傾向にあることを意味するものと思われる。

文 献

- 1) Booth, E. G.: Personality Traits of Athletes as Measured by the MMPI, Research Quarterly, 29, 127, 1958.
- 2) Hathaway, S. R. and J. C. Mckinely: The Minnesota Multiphasic Personality Manual (Revised.), New York.
- 3) 井村恒郎他: 精神医学臨床検査法, 医歯薬出版, 217, 1959.
- 4) Bahlstrom W. and G. S. Walsh: An MMPI Handbook, Ch. 3, 43-85, 1960.

(付) MMPI の解説

MMPIは4項目の妥当性尺度と10項目の臨床尺度に分けられる。妥当性尺度が設けられているのは、一般に質問紙法による自己評価検査には、被験者が嘘をつけるという欠点がある。この欠点を避けようとする目的で、テスト結果の有効性を検討する4つの尺度が設けられている。各人のプロフィールを標準群プロフィールの中に記入し、4項目の妥当性が標準平均点 (Tスコア50) と比べて大きくなれば、臨床尺度の検討に際して、その解答が有効なものとしてみてもいいが、Tスコア点が30以下または70以上の大きくなれば、臨床尺度に対する信頼性も少なく、有効と認めがたいものである。

A. 妥当性尺度

1. 疑問点 The Question Score

疑問点とは被験者が質問に対して「ハイ」「イエ」のいずれにも解答しなかったものである。疑問点が高ければ、それだけ他の尺度の得点となるべき項目が減るから、実際はもっと高くなるのではなかろうかと疑ってみる必要がある。

2. L 嘘構点 The Lie Score

L点は道徳的に自分をよくみせようとか、悪くみせようとして記した場合50点からのずれが大きくなる。

3. F The Validity Score

記載にあたって不注意だったり、でたらめに記載されたかどうかをみようとするもので普通の被験者ならこんな解答をする筈がないものからなっている。

B. 臨床尺度

1. Hs 心気症尺度 The Hypochondriasis Scale

自己の健康について不当に心配し、はっきり指摘できない身体的不調を強く訴える。

2. D うつ病尺度 The Depression Scale

将来に対して人並以上に悲観的だったり、無能感から志気が低下したり、人生を深刻に考えすぎて自信を失くしたりしている場合。

3. Hy ヒステリー尺度 The Hysteria Scale

一般に心理的未成熟や反省力弱く、自我が強い傾向を示す。

4. Pd 精神病質的偏倚尺度 The Psychopathic Deviate

この者の犯しがちな行為は、盗み、嘘、アルコール耽溺、性的不道徳など一連の非社会的行為である。犯罪を犯しても動機に乏しく、ろくにかくそうともせず、深い情動反応に欠けている場合、点数が高くなる。

5. Mf 性度 The Interest Scale

興味の型がどの程度男性的傾向か、女性的傾向にあるかをみる。

6. Pa 偏執病尺度 The Paranoia Scale

過度に敏感で疑い深く、被害妄想を抱きやすい。

7. Pt 精神衰弱尺度 The Psychasthenia Scale

取越苦勞、自信欠乏。

8. Sc 精神分裂病尺度 The Schizophrenia Scale

社会意欲に乏しく、常人と変わった考え方。

9. Ma 軽躁病尺度 The Hypomania Scale

計画をたてすぎて苦勞し、熱狂的、活動的でときに社会規範を無視したりする。

10. Si 社会的向性尺度 The Social I. E. Scale

他人との社会的接触を避けようとする傾向。

本研究に協力をいただいた西尾貫一助教授、平田久雄講師に感謝致します。

An Investigation on the Personality of Sportsman with M. M. P. I.

— On Basket Ball Players —

by

MIZUKI AOI

The following conclusions were obtained from the results of the execution of M. M. P. I. (revised edition by Tokyo University) on the players who are representative basket ball players in Japan and the relations between the personal characters displayed in the test and their height, activity and contribution in games.

1. There were found some neuropathic players but in a lower degree in respect to indexes of neurosis (Hs, D, Hy, Pt), Mf, Ma among the players of the Japanese national team who were elected to the numbers of the international game held in Jakarta in 1962 than those who were not elected at that time.

2. Looking over the relation between the

profile and the height of each player who often played in that international game, it might be concluded that the taller players marked the higher scores in the indexes of neurosis, whereas the shorter players the lower scores. The similar conclusion was obtained among the players of high school and those of the Olympic game who were classified in respect to their height and examined likewise as above.

3. Those who were the members of the national team in 1962 and also chosen as the Olympic game players had had, in effect, the M. M. P. I. test twice, executed two years apart. There was, however, not recognized any noticeable difference in the results of these tests.